

# 異文化コミュニケーションのための 日本と中国4つの価値観

Four different cultural values between Japan and China

梅 田 周  
梅 田 謙  
梅 田 純 子

## はじめに

2008年に欧州評議会が作成した「異文化対話白書 (White Paper on Intercultural Dialogue)」は、「異文化対話」について「異なる民族的、文化的、宗教的、言語的背景と伝統をもつ個人や集団の間での相互理解と尊重に基づく、開かれ、敬意の込められた意見交換からなるプロセスである。自己を表現する自由と能力、並びに他者の意見に耳を傾ける意欲と受容力が必要とされる」と説明している。

注目すべきは、言語的背景が「『相互理解と尊重』によって克服されるべき差異の一部」と述べられていることである。それまで異文化コミュニケーションと言えば、外国語習得がその中心であった。しかし、現代においてはそれだけでは不十分であると白書は示している。

筆者らは長年にわたり中国語教育に携わってきたが、日本国内で中国語をマスターした学生たちから、「いざ中国に行って暮らしてみると全くコミュニケーションがとれず非常に苦労した」という残念な報告を聞くことが多い。このこともまた、いくら流暢に話せたとしても異文化理解が欠如していればコミュニケーションが成り立たないことを如実に表している。本稿は中国語学習者に日中両国における文化の差異に自ら気づき、考えるよう促すことを目的として、日本で中国語を学習している日本人学生 (18歳～22歳) および、中国で日本語を学習している中国人学生 (18歳～25歳) 各100名、計200名に行った価値観に関するアンケート調査の結果をまとめたものである。

## 1-1. 文化とは

「文化」の概念が曖昧なままで議論は進められない。アンケート冒頭ではまず日中両国の学生が文化に対しどのような概念を持っているのかを調べるため、次のような質問をした。①あなたの思いつく典型的な日本文化を3つ挙げてください (请说出三个你能想到的典型“日本文化”)。②あなたが思いつく典型的な中国文化を3つ挙げてください (请说出

三个你能想到的典型“中国文化”。

その結果、日本人が考える日本の文化としては、和食、和服、寿司などが、中国の文化としては、中華料理、パンダ、武術などが挙げられた（表1、2参照）。また、中国人が考える日本文化としては、和食、歌舞伎、桜などが、中国文化としては、京劇、儒教、春節などが挙げられた（表3、4参照）。上位5位のほとんどが目に見える文化であり、目に見えない文化と言えるのは、中国人学生が典型的な中国の文化として挙げた「儒教」のみであった。

表1 日本人学生が考える典型的な日本の文化（有効回答数 279）

1位	和食（41票）
1位	和服（着物、浴衣を含む）（41票）
3位	寿司（刺身を含む）（17票）
4位	歌舞伎（12票）
5位	アニメ（11票）

表2 日本人学生が考える典型的な中国の文化（有効回答数 279）

1位	中華料理（北京料理、上海料理、広東料理を含む）（51票）
2位	パンダ（22票）
3位	武術（カンフー、少林寺拳法を含む）（17票）
4位	春節（旧正月を含む）（16票）
5位	チャイナドレス（14票）

表3 中国人学生が考える典型的な日本の文化（有効回答数 300）

1位	和服（着物を含む）（32票）
2位	歌舞伎（25票）
3位	桜（お花見を含む）（23票）
4位	アニメ（22票）
4位	茶道（22票）

表4 中国人学生が考える典型的な中国の文化（有効回答数 300）

1位	京劇（劇、戯曲、隈取りを含む）（37票）
2位	儒教（儒教学、儒教思想を含む）（22票）
3位	春節（旧正月を含む）（20票）
4位	詩歌（伝統文学を含む）（13票）
5位	茶（茶道を含む）（11票）

## 1-2. 文化の冰山モデル

文化を規定する定義は様々あるが、文化はよく氷山にたとえられる<sup>1</sup>。図1のように、文化には目に見えやすい「意識上」の部分と、目に見えにくい「意識下（無意識）」の部分があるとされる。海を漂う氷山のうち、見えている部分は全体のほんの一部で、ほとんどの部分は水面下に隠れている。文化も同様で、見えている部分よりも見えていない部分の方がはるかに多いということを、このモデルは示している。

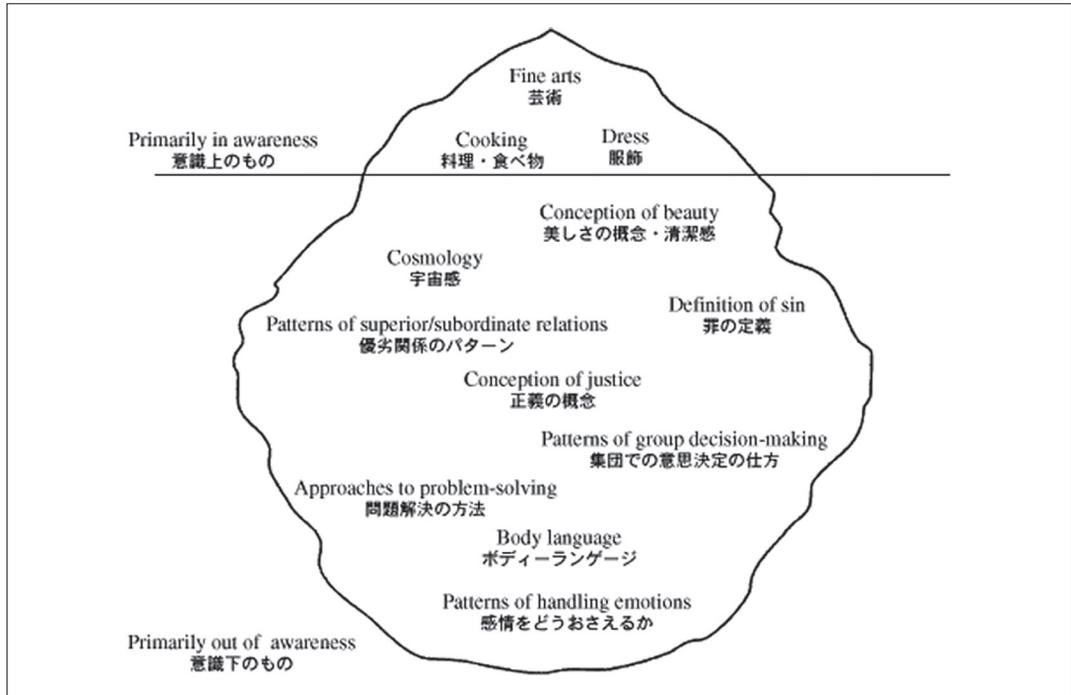


図1 文化の冰山モデル

1-1の調査で挙げられた回答について、冰山モデルの意識上のもの（見える文化）と水面下に隠れている意識下のもの（見えない文化）に分類すると、その件数及び割合は、表5、表6の通りになる。この結果から明らかになるのは、文化について考える時、多くの人が目に見えるものを思い浮かべており、時間の概念、道徳観念、礼儀作法など目に見えない文化を考える人は少ないということだ。

しかし、真に相手の文化を理解するためには、水面下に沈んでいる部分（見えない文化）を理解することこそが大切である。海の氷山の見えない部分が、近くを航行する船舶にとって大変危険なものであるのと同様、文化についても、見えない部分を意識せず、あるいは無視したままで異文化を持つ人とコミュニケーションを行った場合、大きな失敗につながる危険性をはらんでいる。

表5 見える文化と見えない文化の回答比率（日本文化）

回答者国籍	見える文化（割合）	見えない文化（割合）
日本人	264件（94.32%）	15件（5.68%）
中国人	242件（80.7%）	58件（19.3%）

表6 見える文化と見えない文化の回答比率（中国文化）

回答者国籍	見える文化（割合）	見えない文化（割合）
日本人	276件（98.9%）	3件（1.09%）
中国人	235件（79.4%）	61件（20.6%）

### 3. 見えない文化・価値観

ホフステードは、通常は目に見えない文化の違いがどのようにして観察できるかを、たまねぎ型モデル（図2）で説明している<sup>ii</sup>。文化の表層にあるのは「シンボル」で、最も中枢にあるのは「価値観」である。その中間には「ヒーロー」と「儀礼」がある。

シンボルとは、同じ文化を共有している人だけが理解できる特別な意味を持つ言葉、しぐさ、図あるいは物である。言葉遣いや俗語、服装、髪型、コカ・コーラ、旗、ステータスやシンボルなどが、その例である。ヒーローとは、その文化で非常に高く

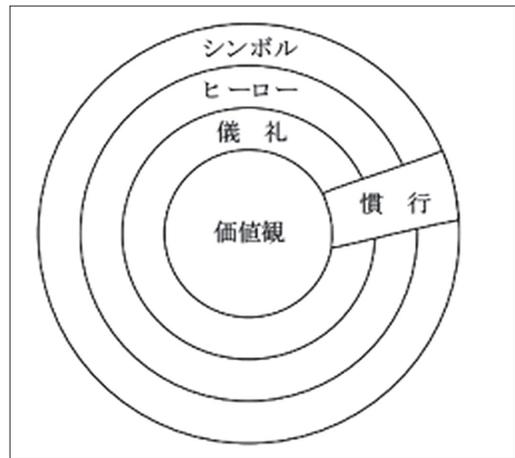


図2 たまねぎ型モデル：文化表出のレベル

評価される特徴を備えていて、人々の模範とされる人物である。存命の人物の場合も、故人の場合もあり、実在の人物の場合も架空の人物の場合もある。儀礼とは、人々が集団で行う活動で、望ましい目的に到達するための手段としては何の役にも立たないが、その文化の中では社会的に無くてはならないと見做されているものである。人間関係の維持に使われる挨拶の仕方や敬意の表わし方がその一例である。これらシンボル、ヒーロー、儀礼を貫くのが慣行（実際の行動）である。これらは慣行として示されることで異文化の人々にも見えはするが、そこに内在する意味までは文化を共有する者にしか理解できない。

文化の最も中枢にあるのは価値観である。子どもの頃から意識せずとも知らず知らずに学び、内面化しているため、一度身につけた価値体系に後で変更を加えることは難しい。文化の違いは表面上は言語の違い、非言語の違い、習慣の違いであるように見えるが、根を探っていくと価値観の違いに行き着くのである。

## 4. 価値観の調査

前項で見たように文化の中核が価値観であるのなら、自国と相手国の価値観を理解することが異文化理解への近道であると考えられる。そこで、様々な世界の価値観の中から、「集団主義と個人主義」、「性善説と性悪説」、「ローコンテキストとハイコンテキスト」、「モノクロニックとポリクロニック」という4つの対立する考え方に関してアンケート調査<sup>iii</sup>を行うことで、目に見えない日中両国の価値観の差異を可視化することにした。

4つの価値観についてそれぞれ5項目ずつ用意した質問事項の回答は、ABCの選択制（複数選択は不可）となっている。Aは1点、Bは5点、Cは3点とし、各人の合計点（最高は25点、最低は5点）を出したのち、日本人学生、中国人学生それぞれの平均点を算出し、定量的に分析した。

調査対象である日本人学生は、「新潟中央短期大学」の2年生及び「新潟経営大学」の1年生、合計100人。中国人学生は「西北大学」、「北京外国語大学」、「天津科技大学」、「北京科技大学」、「中華女子学院」の1年生から4年生の合計100人（両国計200人）である。

### 5-1. 集団主義と個人主義

トリアンディスによれば、「集団主義」とは、密につながった人々によって構成された社会的パターンであり、その中で個人は自身を単数あるいは複数の集団の一部であると定義し、集団のもつ規範や義務を行動の拠り所としているという。個人よりも集団の利益や目標を優先し、集団の中の連帯感を重視する。アイデンティティーは「我々」にあると定義される<sup>iv</sup>。

「個人主義」の社会的パターンでは、人と人との結びつきは弱く、人は個人の好み、要求、権利、契約などにより行動し、他人より自身の利益や目標を優先する。人付き合いでは損得を合理的に分析することを重視し、アイデンティティーは常に「我」にあると定義される。ホフステードは内集団の利害が個人の利害より優先される社会を「集団主義社会」と呼び、「集団主義を特徴とする社会では、個人と個人の結びつきの強い内集団に統合される。内集団に忠誠を誓う限り、人はその集団から生涯にわたって保護される」と定義している。そして個人の利害が内集団の利害よりも優先される社会を「個人主義社会」と呼び、「個人主義を特徴とする社会では、個人と個人の結びつきは緩やかである。人はそれぞれ、自分自身と肉親の面倒を見ればよい」と定義している<sup>v</sup>。以上の特徴をまとめると次のようになる。

#### 【集団主義の国の特徴】

- ・人は内集団の中に生まれて、その集団に忠誠を誓う限り保護される。
- ・子どもは「私たちは」という視点から物事を考えることを学ぶ。
- ・内集団と外集団では、価値観の基準が異なる。排外主義的。

- ・内集団の中では常に調和が保たれ、直接対決は忌避される。
- ・不法行為を起こすことは、本人と内集団にとって恥であり、面子を失うことである。
- ・資産は親族と共有する。
- ・コミュニケーションはコンテクスト（状況）に左右されやすい。

【個人主義の国の特徴】

- ・成人後は、自分と身近な核家族の面倒だけを見ればよい。
- ・子どもは「私は」という視点から物事を考えることを学ぶ。
- ・すべての人に対して同じ価値観が適用される。普遍主義的。
- ・自分の心のうちを語る人が誠実な人である。
- ・不法行為を起こすことは、罪の意識を掻き立て、自尊心を傷つけることである。
- ・所有権は個人のものであり、子どもとも共有しない。
- ・コミュニケーションはコンテクスト（状況）に左右されにくい。

5-2. 日中両国の学生に対する調査（集団主義と個人主義）

今回実施した集団主義と個人主義のアンケートの内容及び結果は以下の通りである。15点を境界線として点数が高い（最高25点）ほど個人主義の傾向が強く、点数が低い（最低5点）ほど集団主義の傾向が強いと言える。

1	A	自分が所属するグループの決定に従わないのは良くない。 不遵守自己所属组织规定的行为，是不行的。
	B	個人的には反対なのに、グループが決めたことだから従うというのはおかしい。 自己持反对意见却因是组织决定就违心而为，这是非常可笑的。
	C	どちらとも言えない。対以上两种意见无法做出选择。
2	A	自分の所属するグループが変われば、私の考えも影響を受けるだろう。 换了环境，自己的想法也应该会受到影响。
	B	どのグループに所属しようが、私の考えは変わらない。 无论环境如何变化，自身的想法都不会变。
	C	どちらとも言えない。対以上两种意见无法做出选择。
3	A	勤務時間が終わっても、他の仲間が働いていれば帰らない方がいい。 虽然到了下班时间，其他人还在工作的话自己也最好不要先走。
	B	勤務時間が終わってれば、いつでも家に帰っていい。 既然到了下班时间，想走随时都可以走。
	C	どちらとも言えない。対以上两种意见无法做出选择。
4	A	グループのために最善を尽くすことが、それぞれの個人を守ることにつながる。 在组织内尽自己最大努力做事，就能确保每个人的利益。
	B	個人の権利を守ることが、そのグループの強さにつながる。 只有保护好个人的应有权力，才能使组织更强更好。
	C	どちらとも言えない。対以上两种意见无法做出选择。
5	A	目立つことは避けたほうがいい。不做引人注目的事为好。
	B	他と異なることはいいことだ。与众不同是件好事。
	C	どちらとも言えない。対以上两种意见无法做出选择。
合計/合計		



性悪説社会は、人間は悪いことをするという前提の上に築かれた法治社会であり、性善説社会は、人間は善であるということをも前提とした信頼社会であるともいえる。

## 6-2. 日中両国の学生に対する調査（性善説と性悪説）

今回実施した性善説と性悪説に関するアンケートの内容及び結果は以下の通りである。15点を境界線として点数が高い（最高25点）ほど性悪説的な思考傾向が強く、低い（最低5点）ほど性善説的な思考傾向が強いと言える。

1	A	子供は純真無垢な存在として、生まれてくる。婴儿出生时非常纯洁无邪。
	B	子供は罪を背負って生まれてくるので、浄化を受ける必要がある。 婴儿出生时就带着原罪，需要接受净化。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
2	A	世の中はお互いに助け合って生きていくものだ。生活中都需要人与人之间的互相帮助。
	B	他人をあてにしないで、自分のことは自分でするようにしなければならない。 不依赖他人，自己的事情自己要做好。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
3	A	人間関係では相手を信用することが大切である。人与人之间，信赖是非常重要的。
	B	人を信用するときは慎重に判断し、信用が裏切られる事態も想定しておくべきだ。 信任他人时需慎重判断，应该做好被骗的准备。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
4	A	子供は生まれながらに愛すべき存在である。孩子生下后就应该得到无条件的爱。
	B	子供は生まれながらに利己的なので、厳しくしつけをする必要がある。 孩子天生都是利己者，需要严格管教。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
5	A	どんな人間でも正しい生き方をしようと思っている。任何人都有走正路的愿望。
	B	人間は誰も見ていなければ悪いことをしてしまう生き物である。 人天生就是无人管教、监视就可能做坏事的生物。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
合計/合計		

国籍	平均点
日本（有効回答者数 100 人）	9.80 点
中国（有効回答者数 100 人）	17.24 点

今回の4つの価値観に関するアンケートの中で、日本人学生と中国人学生の考え方の中で、最も大きな差異が認められたのはこの項目であった。中国人学生が性悪説寄りの考

え方を持っているのに対し、日本人学生は極度に性善説的な考え方を持っている。

その理由は国の成り立ちにあると考えられる。絶えず戦争や戦乱が続いた中国では治乱興亡の中でしたたかさを身につける必要があり、生きるための力として、ディベートやプレゼンテーション、コミュニケーション力の大切さを幼少期から学んできたのである。

一方、農耕中心の単一民族から成る島国の日本では、何よりも共同体を維持するため、内部の和、信頼関係、助け合い、思いやりなどを必要とする倫理として、性善説の方が風土

的に根付きやすかったのだと考えられる。

アンケート調査の過程でも、来日経験のある中国人学生から、日本では「レストランなど公共の場で、カバンを置いたまま席を立ってもなくなる」、「電車内で居眠りする女性がいる」、「屋外に自動販売機が設置されている」、「農作物などの無人販売所がある」といったことを驚く声が聞かれた。

性善説に基づく考え方が道徳の基盤となっている日本は、世界でも稀有な信頼関係で結ばれた安全で安心な国である一方、異文化との接触においても甘さが出たり、相手の善意に期待する性質が抜けなかつたりするとも考えられる。

中国のみならず、「マキャベリ君主論」の浸透している欧州諸国でも性悪説は支持されており、性悪説が世界のスタンダードだと言っても過言ではない。

性善説と性悪説はどちらが正しく、どちらが間違っているというものではなく、ただ価値観を異にしているだけである。日本人は性善説の良さを残しながらも、性悪説を学び、積極的に異文化と交流していかなければならないし、性悪説に立つ中国人も性善説の良さを学んでいくべきであろう。

## 7-1. ローコンテキストとハイコンテキスト

効果的なコミュニケーターとなるために必要な能力は、文化によって劇的に異なってくる。アメリカやその他アングロサクソン文化圏では、人々はできるだけ字義通りかつ曖昧さのないコミュニケーションをするように（ほとんど無意識のレベルで）訓練されている。良いコミュニケーションとは何より明確で曖昧さのないものことであって、メッセージを正確に伝えることがコミュニケーターの責任として重要視されている。このようなコミュニケーションスタイルをコンテキスト（文脈・背景）の共通性が低いということから「ローコンテキスト」と呼ぶ。

対照的にインド、中国、日本そしてインドネシアを含む多くのアジア文化圏では、メッセージをほのめかして伝えること、つまり聞く側に行間を読むことが求められる場合がしばしばある。良いコミュニケーションとは繊細で、多層的で、時に言外の様々な意味に左右されるものことであり、メッセージを伝える責任はメッセージを送る側と受け取る側の両方で共有される。同じことは多くのアフリカ文化にも当てはまり、少し傾向は弱まるもののラテンアメリカ文化やラテンヨーロッパ文化にも当てはまる。これらのようなコミュニケーションスタイルは「ハイコンテキスト」と呼ばれる。

## 7-2. 日中両国の学生に対する調査結果（ローコンテキストとハイコンテキスト）

今回実施したローコンテキストとハイコンテキストに関するアンケートの内容及び結果は以下の通りである。15点を境界線として点数が高い（最高25点）ほどローコンテ

ト的な思考傾向が強く、点数が低い（最低5点）ほどハイコンテクスト的な思考傾向が強いと言える。

1	A	友達からの誘いを断るときは、婉曲的な表現で断る。 拒绝朋友邀请时，用委婉的方式为好。
	B	友達からの誘いを断るときは、「いいえ（No）」をはっきり言って断る。 拒绝朋友邀请时，用“不行”等明了的语言直接说清楚。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
2	A	転職するまえにその会社に給料の明細を聞くのは止めたほうがいい。 换工作时，不要对新公司的工资待遇问得太多太细。
	B	転職するまえに自分の給料の額をはっきりと聞くのは当たり前である。 换工作时，对自己的工资待遇一定要问清问细。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
3	A	「愛してる」って言わなくても、私はあなたを愛している。 “我爱你”即便不说出口，彼此心里也是清楚的。
	B	「愛してる」って言ってくれなければ、あなたは私を愛していない。 “我爱你”没有说出口，对方怎么会知道呢？！
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
4	A	新しい職場の仕事内容は働きながらだんだん覚えていくものだ。 新工作的内容边做边记就行，工作前无需知道得太细。
	B	新しい職場の仕事内容は事前にできるだけ細かく教えてほしい。 录用新人前就应该把新工作的内容详细告知。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
5	A	自分の意見があっても言わないでいることがよくある。有不同意见也常常不说。
	B	思っていることははっきりと口に出さないと気がすまない。自己的想法不吐不快。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
合計/合計		

国籍	平均点
日本（有効回答者数 100 人）	13.39 点
中国（有効回答者数 100 人）	11.72 点

アンケートの結果では、日本と中国の学生は等しくハイコンテクスト文化に属することが分かった。しかし意外なことに、「KY（空気が読めない）」という流行語を

生むほどの、世界一ハイコンテクストと言えるはずの日本人よりも、中国人の方がハイコンテクストの度合いがほんのわずかではあるが高い結果となった。これは2015年のエリン・メイヤーの調査結果（図4）とは異なっている。だが、これには今回の調査に参加した中国人学生の方が、日本人学生より年齢が高かったことが起因しているとも考えられる。

それよりも、ここで押さえておくべきは、日本人も中国人も極めてハイコンテクストであるということだ。異文化の人同士の交流には①ローコンテクストとローコンテクスト②ローコンテクストとハイコンテクスト③ハイコンテクストとハイコンテクストの三つのパターンがありうるが、この中で最も誤解が生じやすく、文化摩擦の原因になりかねないのは、意外にも③のハイコンテクスト同士だからである。

①のパターンであれば、たとえお互いが異文化同士であっても、伝達される情報は全て言語で明確に表現されるので誤解が生じにくい。しかし③のパターンでは、同文化同士であれば全く問題なくスムーズに行われるコミュニケーションも、異文化同士になるとお互いが自身の文化的価値観の中で含みを持って発言し、含みを持って解釈するためにミスコミュニケーションが発生する可能性が非常に高まるのである。

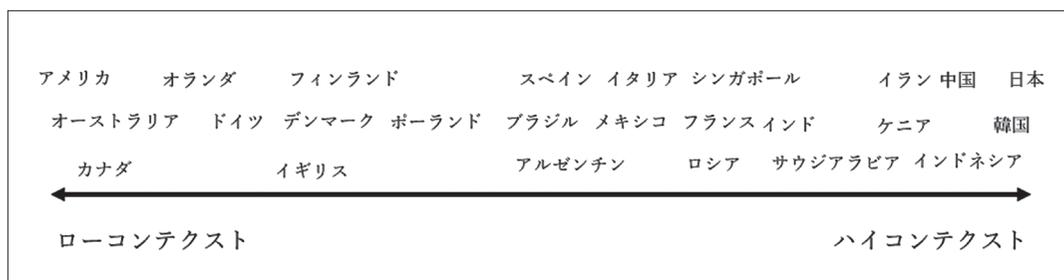


図4 「コミュニケーション」の各国分布<sup>viii</sup>

## 8-1. モノクロニックとポリクロニック

「時間感覚は文化の違いからきている」と述べたのは、文化人類学者のエドワード・ホールだ。ホールは時間に対する行動のパターンには、「モノクロニックタイム（Monochronic Time—M タイム）」と「ポリクロニックタイム（Polychronic Time—P タイム）」の2種類があると提唱した。M タイム型の人々はスケジュールを重視し、予定を一つ一つこなしていくような時間の使い方をするのに対し、P タイム型の人々は予定よりもその時の状況を重視し、複数の事柄を同時に行おうとするような時間の使い方をする<sup>ix</sup>。

両者は以下のように対照的な行動をとる傾向にあり、そのためM タイムとP タイムが接する場面で文化的摩擦が起きることが多い。お互いに時間に対する価値観が異なることを予め理解していれば、ストレスなく交流することができるはずである。

### 【M タイムの特徴】

- ・時計時間に厳密に従う。
- ・期限を守る。
- ・計画を厳守する。
- ・一度に一つのことに集中する。
- ・短期の人間関係を重視する。
- ・他からの干渉を嫌う。

### 【P タイムの特徴】

- ・時計時間をさほど重視しない。

- ・期限より人間関係を重視し、期限の変更をいとわない。
- ・計画を柔軟に変更する。
- ・同時にいくつかの仕事をこなす。
- ・長期の人間関係を大事にする。
- ・他からの干渉をいとわない。

## 8-2. 日中両国の学生に対する調査結果（モノクロニックとポリクロニック）

今回実施したモノクロニックとポリクロニックに関するアンケートの内容及び結果は以下の通りである。15点を境界線として点数が高い（最高25点）ほどポリクロニック的な思考傾向が強く、点数が低い（最低5点）ほどモノクロニック的な思考傾向が強いと言える。

1	A	約束した時間までにはできるだけ行くようにする。尽力遵守约定时间。
	B	約束した時間には少しぐらい遅れてもかまわない。比约定时间晚到一会儿也无大碍。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
2	A	手帳に予定を書き込んで、スケジュールを管理し、時間を有効に活用したい。 在手账上记好日程，管理好日常安排，有效利用时间。
	B	予定はあくまでも予定であり、その時間の状況で柔軟に対応したい。 计划总归只是计划，到时候要看具体情况随机应变。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
3	A	工作中に友人に会っても、軽く挨拶して、そのまま仕事を続けるほうである。 在工作中遇见朋友也应该点头致意后就专注于工作。
	B	友達を見たら仕事の手を休め、ゆっくりと話すほうである。 在工作中遇见朋友会放下手中的工作与之交谈。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
4	A	連絡もなく、ドタキャンされると不快な気持ちになる。 遇到被突然爽约又没通知到自己的事，心里会很不舒服。
	B	約束しても、行けるときと行けない時がある。即使定下了约定，有时也会爽约。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
5	A	計画通りにものごとが進まないといライラするほうである。 计划不能如期进行时，无法平静做事。
	B	計画はあくまでも目安であり、その通りに進むものではない。 计划总归是计划，有变化也很正常。
	C	どちらとも言えない。对以上两种意见无法做出选择。
合計/合計		

国籍	平均点
日本（有効回答者数 100 人）	12.36 点
中国（有効回答者数 100 人）	12.10 点

かつて日本人のビジネスマンから、「中国人は時間にルーズだ」、「中国人はアポイントメントをとらずに突然会いに来る」などという批判がよく聞かれた。そのような

時に私は、「決して中国人が怠け者なのではなく、モノクロニックな時間の観念を持って

いるからであり、中国人は柔軟性の最たる人々なのだ」と説明していた。しかし、今回のアンケート結果から見れば、日本人学生も、中国人学生もほぼ同じ時間概念を持っていることになる。

本来、人間は一元的な時計時間にとらわれず、日が昇れば働き出し、沈めば眠るなど自然の移ろいや出来事、状況に従い過ごすポリクロニックな生活をしていた。Mタイム的な観念は、産業革命により、機械を使って大量生産するようになってからもたらされたのである。それまでポリクロニックな生活を気ままに過ごしてきた労働者たちは、生産性や効率を上げるために時計の時間に従って行動することが求められるようになった。こうして欧米中心に始まったモノクロニックな生活は、やがてグローバル化の進展や経済発展に伴い、様々な国に広がっていったと考えられる。

今日では時間に厳格な国民性として世界に定評のある日本人も、明治初期までは典型的なPタイムであった。幕末に長崎海軍伝習所教官として派遣されたオランダ海軍のカッテンディーケが書き残した記録<sup>x</sup>には、「日本人の悠長さには呆れるくらいだ」と記しており、その例として、「修理のために満潮時に届くように注文したのに一向に届かない材木」、「工場に一度顔を出したきり二度と戻ってこない職人」、「正月の挨拶まわりに二日間を費やす馬丁」などのエピソードが次々と例示されている。日本人の時間規律は近代資本主義の成立と共に、様々な葛藤を経て確立していったことが伺える。中国人の時間観念も、時代と共に変わってきているのであろう。

## おわりに

4つの価値観に関する調査結果を1つのグラフにまとめて表わしたものが図5である。グレーの部分は日本的価値観を示しており、数値が低ければ低いほど世間一般的に考えられている「典型的な日本人」の価値観を表わしていることになる。今回の調査においても、日本人学生の数値は4項目の全てが、従来の日本的価値観内に入っていた。

しかし日本人の際立った特徴であるはずの「ハイコンテクスト」的な思考傾向はそれほど強くなく、「ローコンテクスト」の領域に近づきつつあることが興味深い。同じように従来、中国人の特徴であると考えられていた「集団主義」や「ポリクロニック」的思考も、相対する「個人主義」、「モノクロニック」の領域へ近づいてきている。その理由は、調査対象者が若い世代であったからだと推測される。つまりグローバル化の進展により、2つの国の価値観が年々、近似化しつつあると考えられる。

勿論あくまでも近似化であって、同一化ではない。今回のアンケート結果からも、一衣帯水の国でありながら、日本と中国の間にも価値観の差異が存在することが確認できた。とりわけ「性善説」と「性悪説」の項目においては大きな差異が認められた。私たちは普段、無意識に自分がある文化に合わせて暮らしており、自身の価値観から外れることは否

定したくなる。しかし、日中両国の価値観についての文化の傾向、特徴を理解しておくことで、相手の言動の真意を理解し、自分の言動を相手はどう捉えているかを理解することができるはずである。なぜなら価値観こそが実際の行動を導くものだからである。自分には理解不能で、奇妙にしか思えないような行動が、実はその文化の価値観からすれば理に適ったものであると納得できれば、より良いコミュニケーション行動のための第一歩が踏み出せるであろう。

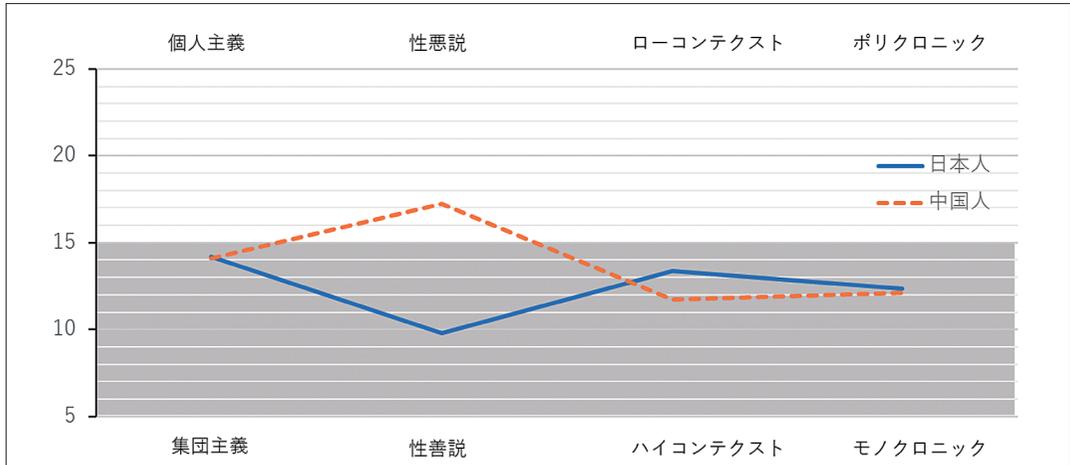


図5 4つの価値観・日中対比<sup>xi</sup>

〈注〉

- i Fennes, H. and Hapgood, k.(1997) *Intercultural Learning in classroom : Crossing Borders*. London:Cassel.ISBN:0 304 32685 2
- ii G・ホフステード(1995)『多文化世界』有斐閣・岩井紀子、岩井八郎訳 P7 から引用
- iii 原沢伊都夫著(2013)『異文化理解入門』研究社 P119-P123 の質問項目を引用してアンケートを作成した。なお、同項目の原典は Bradford J. Hall 著(2002)『Among Cultures : The Challenge of Communication』の中の“WORLD VIEWS”(pp.110-111)である。
- iv H.C. トリアンディス(2002)『個人主義と集団主義、2つのレンズを通して読み解く』北大路書房・神山貴弥、藤原武弘編訳
- v G・ホフステード(1995)『多文化世界』有斐閣・岩井紀子、岩井八郎訳参考
- vi <https://blog.brainpad.co.jp/entry/2014/11/28/211728> から引用
- vii 原沢伊都夫著(2013)『異文化理解入門』研究社 P121 から引用
- viii エリン・メイヤー(2015)『異文化理解力』英治出版・樋口武志訳・田岡恵監訳 P59 から引用
- ix エドワード・T・ホール(1983)『文化としての時間』TBSブリタニカ・宇波彰訳
- x ファン・カッテンディーケ(1860)『長崎海軍伝習所の日々ー日本滞在記抄』平凡社・東洋文庫 26 水田信利訳
- xi 原沢伊都夫著(2013)『異文化理解入門』研究社 P124 図表をもとに筆者作成

〈参考文献〉

鳥飼久美子・野田研一・平賀正子・小山亘（2011）『異文化コミュニケーション学への招待』みすず書房

八代京子・町恵理子・小池浩子・吉田友子（2009）『異文化トレーニング・ボーダレス社会を生きる』三修社

